



広島大学

教育課程論

教育

C U R R I C U L U M

課程

#3 学習指導要領の変遷, #4 学習指導要領の現在

南浦 涼介

あ～えの授業を、年代の古い順番に並び替えよ！

あ

単元 世界の気候（小学校高学年）

目標

- ・ 地表における気候のもっとも典型的な地域である赤道と極を取り上げ、気温・風・雨の三要素を理解する
- ・ 赤道・極の気候を決める三要素の関連を大気の循環から構造的に捉える。
- ・ 大まかに5つの地域の気候を見だし、その特色を知る
- ・ 5つの地域の気候の概要を知り、その特色を明らかにする

赤道と極

- ① 地球を取り巻く大気の様子はどうなっているだろう
- ② 世界の気候の様子を話し合う

大気の動きと気候

- ④ 赤道や極地の気候の違いはどうして起きるのか
- ⑤ 地球を取り巻く大気はどのように動いているのか
- ⑥ 地球では気候の違う場所は大きくどう分けられるだろうか

世界の色々な気候

- ⑦ 「世界の気候区」の5つの区分をたしかめよう
- ⑧ 各気候区の気温と降水量、1年の変化をグラフにして話し合う
- ⑨ 気候区を決定して名称を決め、特色を文章にする

い

単元 新紙幣の肖像画（小学校高学年）

目標

- ・ 新紙幣の人物の功績を調べ、まとめたことを友だちと伝え合うことを通して近代化に寄与したことを理解できる
- ・ 新紙幣の3名が肖像画に選ばれたことの原因を通して、明治時代と現在の社会を比べたり、社会発展における普遍的な価値について考えることができる
- ・ 交流学習を通して、肖像画に選ばれた理由を自ら考えたり友だちとかわりながら追求できる

紙幣の肖像画の移り変わりを知る

- ① 紙幣の肖像画の移り変わりを知る
- ② 紙幣の肖像にはどんな人が選ばれてきたか

新紙幣の肖像画の人物の功績を班ごとに調べる

- ③ 新紙幣のA氏、B氏、C氏はどんな人物だろうか
- ④ 班に分かれて、それぞれA氏～C氏を調べる
- ⑤ A氏～C氏班を分解して共有する

紙幣の肖像に選ばれることと社会貢献の関係を考える

- ⑥ なぜこの3名が新紙幣の肖像に選ばれたのだろうか
- ⑦ 3名の人物の功績と今の社会の課題をかわらせて考える
- ⑧ 100年後の新紙幣の肖像にはどんな人がなるのだろうか

う

単元 昔と今の乗りもの（小学校高学年）

目標

- ・ 町を中心とする交通の発達やその様子を調べ、交通がどのように変わっているかを理解させる
- ・ 交通がと地域の関係を理解させる
- ・ 模型づくりなどを通して交通ルールについて理解させる
- ・ 交通の今と昔について理解させ、将来を考えさせる

単元の導入

- ① 旅行をして楽しかったことを話し合う
- ② 自分の旅行をしたところを地図から探して出す

地理と交通にはどんな関係があるのだろうか

- ③ 県の砂地図を作る（山、川、野、港、道など）

困難な地形を克服するためにどんな交通があるだろう

- ④ この町を中心とする鉄道の模型を作る
- ⑤ 駅長の話を聞く

交通をつかって人が仲良くするにはどうしたらいいか

- ⑥ 交通安全のポスターを書く
- ⑦ 交通ルールについて話しあう
- ⑧ 町内の交通状況を調べる
- ⑨ 乗りものの発達と現状を調べて、展示会を開く
- ⑩ 交通に貢献した人々を調べる
- ⑪ 将来の交通機関について話しあい、作文や劇にする

え

この学校は、その日の気分や都合で、毎日、好きなところに座っていいのだ。

（中略）

ふつうの学校は、1時間目が国語なら、国語をやって、2時間目が算数なら、算数、というふうに、時間割通りの順番なのだけど、この点この学校は、まるっきり違っていた。

なにしろ、1時間目が始まるときに、その日、一日やる時間割の、全部の科目の問題を、先生が黒板にいっぱい書いて、「さあ、どれでも好きなものから始めてください」といったんだ。だから子どもたちは、国語であろうと、算数であろうと、自分の好きなものから始めていっこうに、かまわないのだった。だから、作文の好きな子が、作文を書いていると、うしろでは、物理の好きな子が、アルコール・ランプに火をつけて、フラスコをブクブクやったり、なにかを爆発させてる、なんていう光景は、どの教室でも見られることだった。

（中略）

子どもたちにとって、好きな学科からやっていい、というのはうれしいことだったし、嫌いな学科にしても、学校が終わる時間までにやればいいのだから、なんとかやりくり出来た。従って自習の形式が多く、わからなくなってくると、先生のところに聞きに行くか、自分の席に先生に来てもらい、納得のいくまで教えてもらう。そして、例題をもらってまた自習に入る。

（ある卒業生の記録より）

え

この学校は、その日の気分や都合で、毎日、好きなところに座っているのだ。
 (中略)
 ふつうの学校は、1時間目が国語なら、国語をやって、2時間目が算数なら、算数。というふうに、時間制通りの順番なのだけど、この点この学校は、まるっきり違っていた。
 なにしろ、一時間目が始まるときに、その日、一日やる時間割の、全部の科目の問題を、先生が黒板にいっぱい書いて、「さあ、どれでも好きなものから、始めてください」といったんだ。だから子どもたちは、国語であろうと、算数であろうと、自分の好きなものから始めていっこうに、かまわないのだった。だから、作文の好きな子が、作文を書いていると、うしろでは、物理の好きな子が、アルコール・ランプに火をつけて、フラスコをブクブクやったり、なにかを爆発させてる、なんていう光景は、どの教室でも見られることだった。
 (中略)
 子どもたちにとって、好きな学科からやっていい、というのはうれしいことだったし、嫌いな学科にしても、学校が終わる時間までにやればいいのだから、なんとかやりくり出来た。従って自習の形式が多く、わからなくなってくると、先生のところに聞きに行くか、自分の席に先生に来てもらい、納得のいくまで教えてもらう。そして、例題をもらってまた自習に入る。
 (ある卒業生の記録より)

1930年代

トモエ学園
窓ぎわのトットちゃん
より

う

単元 昔と今の乗りもの (小学校高学年)
 目標
 ・ 町を中心とする交通の発達やその様子を調べ、交通がどのように変わっているかを理解させる
 ・ 交通がと地域の関係を理解させる
 ・ 模型づくりなどを通して交通ルールについて理解させる
 ・ 交通の今と昔について理解させ、将来を考えさせる
 単元の導入
 ① 旅行をして楽しかったことを話し合う
 ② 自分の旅行をしたところを地図から探して出す
 地理と交通にはどんな関係があるのだろう
 ③ 県の砂地図を作る (山、川、野、港、道など)
 困難な地形を克服するためにどんな交通があるだろう
 ④ この町を中心とする鉄道の模型を作る
 ⑤ 駅長の話を聞く
 交通をつかって人が仲良くするにはどうしたらいいか
 ⑥ 交通安全のポスターを書く
 ⑦ 交通ルールについて話しあう
 ⑧ 町内の交通状況を調べる
 ⑨ 乗りものの発達と現状を調べて、展覧会を開く
 ⑩ 交通に貢献した人々を調べる
 ⑪ 将来の交通機関について話しあい、作文や劇にする

1940年代後半

西条プラン
賀茂郡西条町西条小学校

あ

単元 世界の気候 (小学校高学年)
 目標
 ・ 地表における気候のもっとも典型的な地域である赤道と極を取り上げ、気温・風・雨の三要素を理解する
 ・ 赤道・極の気候を決める三要素の関連を大気の循環から構造的に捉える。
 ・ 大まかに5つの地域の気候を見だし、その特色を知る
 ・ 5つの地域の気候の概要を知り、その特色を明らかにする
 赤道と極
 ① 地球を取り巻く大気の様子はどうなっているだろう
 ② 世界の気候の様子を話し合う
 大気の動きと気候
 ③ 赤道と極地の気候の違いはどうして起きるのか
 ④ 地球を取り巻く大気はどのように動いているのか
 ⑤ 地球では気候の違う場所は大きくどう分けられるだろうか
 世界の色々な気候
 ⑥ 「世界の気候区」の5つの区分をたしかめよう
 ⑦ 各気候区の気温と降水量、1年の変化をグラフにして話し合う
 ⑧ 気候区を決定して名称を決め、特色を文章にする

1960年代

教育科学研究会
社会科部会
日立市河原子小学校
鈴木正気実践

い

単元 新紙幣の肖像画 (小学校高学年)
 目標
 ・ 新紙幣の人物の功績を調べ、まとめたことを友だちと伝え合うことを通して近代化に寄与したことを理解できる
 ・ 新紙幣の3名が肖像画に選ばれたことの原因を通して、明治時代と現在の社会を比べたり、社会発展における普遍的な価値について考えることができる
 ・ 交流学習を通して、肖像画に選ばれた理由を自ら考えたり友だちとかかわりながら追求できる
 紙幣の肖像画の移り変わりを知る
 ① 紙幣の肖像画の移り変わりを知る
 ② 紙幣の肖像にはどんな人が選ばれてきたか
 新紙幣の肖像画の人物の功績を班ごとに調べる
 ③ 新紙幣のA氏、B氏、C氏はどんな人物だろうか
 ④ 班に分かれて、それぞれA氏～C氏を調べる
 ⑤ A氏～C氏班を分解して共有する
 紙幣の肖像に選ばれることと社会貢献の関係を考える
 ⑥ なぜこの3名が新紙幣の肖像に選ばれたのだろうか
 ⑦ 3名の人物の功績と今の社会の課題をかわらせて考える
 ⑧ 100年後の新紙幣の肖像にはどんな人になるのだろうか

2022年

広島大学附属
東雲小学校

①1947年版学習指導要領

②1951年版学習指導要領

③1958年版学習指導要領

④1968年版学習指導要領

⑤1977年版学習指導要領

⑥1989年版学習指導要領

⑦1998年版学習指導要領

⑧2008年版学習指導要領

⑨2017年版学習指導要領

学習指導要領（試案）

戦前の修身・地理・歴史の廃止
社会科の新設・総合的な教育の重視

系統的な内容への変更
道徳の時間の新設
教育内容の現代化

ゆとりカリキュラム・授業の削減
新学力観（個性重視の教育）
生活科の新設
総合的な学習の時間の新設
学校週5日制

「生きる力」の重視
基礎・基本の習得と活用
総合の削減・授業数の増加
小学校高学年の外国語活動
主体的・対話的で深い学び

経験主義
教育

系統主義
教育

ゆとり
教育

〇〇
教育？

①1947年

西条プラン

賀茂郡西条町西条小学校

②1951年

学習指導要領（試案）

戦前の修身・地理・歴史の廃止
社会科の新設・総合的な教育の重視

経験主義
教育

③1958年

教育科学研究会

社会科部会

日立市河原子小学校

④1968年

鈴木正気実践

系統的な内容への変更

道徳の時間の新設

教育内容の現代化

系統主義
教育

⑤1977年版学習指導要領

⑥1989年版学習指導要領

⑦1998年版学習指導要領

ゆとりカリキュラム・授業の削減

新学力観（個性重視の教育）

生活科の新設

総合的な学習の時間の新設

学校週5日制

「生きる力」の重視

基礎・基本の習得と活用

総合の削減・授業数の増加

小学校高学年の外国語活動

主体的・対話的で深い学び

ゆとり
教育

⑧2008年版学習指導要領

⑨2018年

広島大学附属

東雲小学校

〇〇
教育？

学校をめぐる大人の世界の人たちの「経験主義」に対する
反対意見はどういうものなのだろうか？ 想像してみよう

子どもたちは戦後の新しい学
校制度。
親世代は戦前の学校制度

A 保護者

戦前と戦後の教育のギャップ
に対する大人側のずれ

戦後の焼け跡から産業を復活
させていくことが必要

B 地域の人

人口の多い中で、第二次産業
に進むことを念頭に置いた学
習イメージ

C 企業・財界

アメリカとソビエトの冷戦構
造が始まる中、ソビエトが先
に宇宙開発を始めた。

D 国会議員

復興から高度成長に向かう中
冷戦構造の中での「体系的な
知識」を要求する社会

左「昔と今の乗りもの」と 右「野菜作り」は同じ経験主義的だけどどう違う？

単元 昔と今の乗りもの（小学校高学年）

目標

- 町を中心とする交通の発達やその様子を調べ、交通がどのようなになっているかを理解させる
- 交通がと地域の関係を理解させる
- 模型づくりなどを通して交通ルールについて理解させる
- 交通の今と昔について理解させ、将来を考えさせる

単元の導入

- ① 旅行をして楽しかったことを話し合う
- ② 自分の旅行をしたところを地図から探して出す

地理と交通にはどんな関係があるのだろう

- ③ 県の砂地図を作る（山、川、野、港、道など）

困難な地形を克服するためにどんな交通があるだろう

- ④ この町を中心とする鉄道の模型を作る
- ⑤ 駅長の話聞く

交通をつかって人が仲良くするにはどうしたらいいか

- ⑥ 交通安全のポスターを書く
- ⑦ 交通ルールについて話しあう
- ⑧ 町内の交通状況を調べる
- ⑨ 乗りものの発達と現状を調べて、展覧会を開く
- ⑩ 交通に貢献した人々を調べる
- ⑪ 将来の交通機関について話しあい、作文や劇にする

単元 野菜作り（小学校高学年）

目標

- お弁当も作ってやれないほど忙しいとか、安く買ったたかれるとかの問題は、どんなところから、どのように、なぜ出てくるのかをつかむ
- より深くつつこんだ認識（分析と統合）をすることによって、何が問題なのかをつかませると同時に、問題を解決していく態度を養う。

野菜作りはいそがしい

- ① どうして裸足になって、ぞうり一足も買わないのか
- ② どうしてこんなに、みなさんも働かなければならなかったり、勉強もかまってもらえなかったり、足をけがするかもしれない裸足でいたり、弁当も作ってもらえなかったりするのでしょうか
- ③ ではね、どうして忙しいのでしょうか。野菜を1回だけ作ればいいじゃないか（賛成か反対か）

野菜の値段

- ④ どうして5円なんて、安いときに出荷するのか
- ⑤ こんな値段の安いのをなくすにはどうしたらいいか
- ⑥ ほうれん草1把5円で出荷することは安いのか高いのか

まとめの作文

- ⑦ 雪のたくさん降る地方の人は、東京の子どもたちは、農村の人はどんなふうに暮らしているのかな。やっぱり私たちみたいにくらしているのかな
- ⑧ 思ったこと、考えたことの作文を書こう

学び手の関心を中心

社会の側の期待を中心

昔と今の乗りもの

社会（生活）適応主義

子ども中心であるが，知性への向き合い方よりは態度形成を重視して，社会・生活への適応を重視する。

子ども中心主義

野菜作り

デューイの教育
 子どもの関心をもとにしながら
 子どもが知を練り上げていく

社会的効率主義

社会の中で貢献できることを主軸にして，「役に立つ」学問を合理的・効率的に学んでいくことを重視する

社会改造主義

社会をよりよいものに変えていくこと，社会変革のためのクリティカルな考え方の育成などを重視する。

 適応する
 （社会化する）

その社会の秩序や習慣，考え方を教え，身につけていく

 よりよくする
 （主体化する）

より強い「個」として考え，変えたり提案したりしていく

多くの経験主義教育は子どもの関心から生活や社会を学ぶのだが「社会（生活）適応主義」的なものが多く，「子ども中心主義」的なものは少なかった結果，「知」「考え」の練り上げという点が見えにくく，「体験に終始」になりやすい

教育関係者たちの憂い 「生活と学力」

ある小学校のある学級での算数の文章題

すすむ君の家から、駅までいくには、15分かかります。午前9時20分に発車する電車にまにあうためには、何時何分に家を出たらいいでしょう。

大部分の子が9時5分と回答
 9時4分と回答している子が4、5人

それが相当優秀な力の持ち主に多かった」というのである。その理由は「だって、ちょっぴり9時5分に出たら、電車のドアがしまってしまうかもしれないから、9時5分と出したあとで1分引いて9時4分としたの

これがもし、ただ単に○と×をつけるだけで、それを平均して通信簿につけるだけの方法でテストが利用されていたとしたらどうでしょう。この四、五人の子どもは当然、×の部に入るでしょうし、他の子どもも算数という教科と生活の事実の関係に目を開くこともできなかったでしょう」、「教師は次の指導のめあてをはっきりさせ、子どもには学習のめあてをはっきりさせる役目をもつのが、評価ではなからうか。

学力のゆがみ

基礎学力低下

学力低下論争

系統
主義

経験
主義

教育関係者たちの憂い 「生活と学力」

4×8の計算で答えを出す問題（おはなし）を作ってください

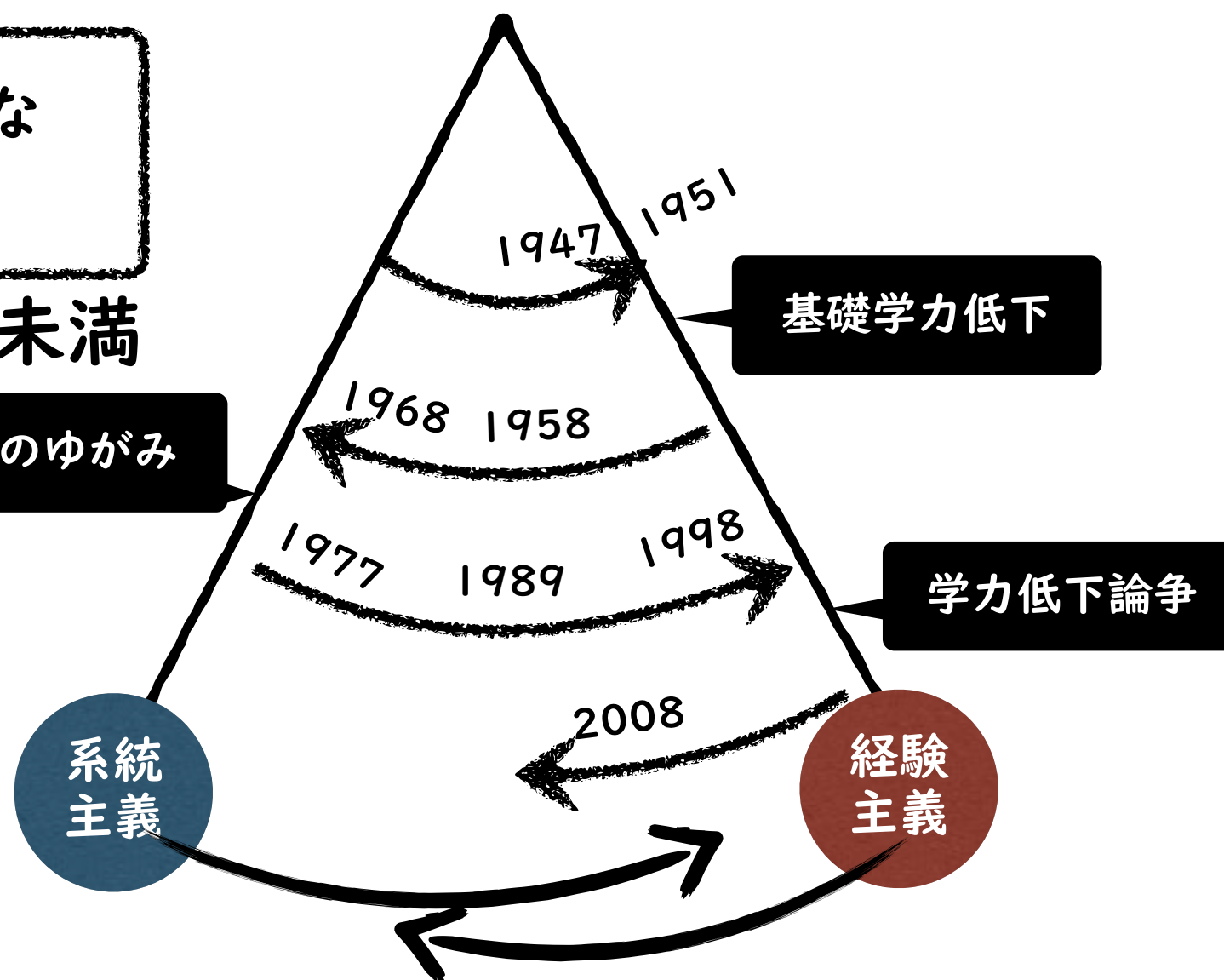
正答率：50%未満

学力のゆがみ

大学生たちへの追跡調査

4このボールと8このボールがあります。これをかけるとなんこになりますか。

一日肉4kgを食べ、8日間食べ続けたら全部で何kg食べたことになるのか。



学び手の関心を中心

社会の側の期待を中心

昔と今の乗りもの

系統主義はココが多い

適応する
(社会化する)

社会（生活）適応主義

社会的効率主義

その社会の秩序や習慣、考え方を教え、身につけていく

子ども中心であるが、知性への向き合い方よりは態度形成を重視して、社会・生活への適応を重視する。

社会の中で貢献できることを主軸にして、「役に立つ」学問を合理的・効率的に学んでいくことを重視する

子ども中心主義

社会改造主義

よりよくする
(主体化する)

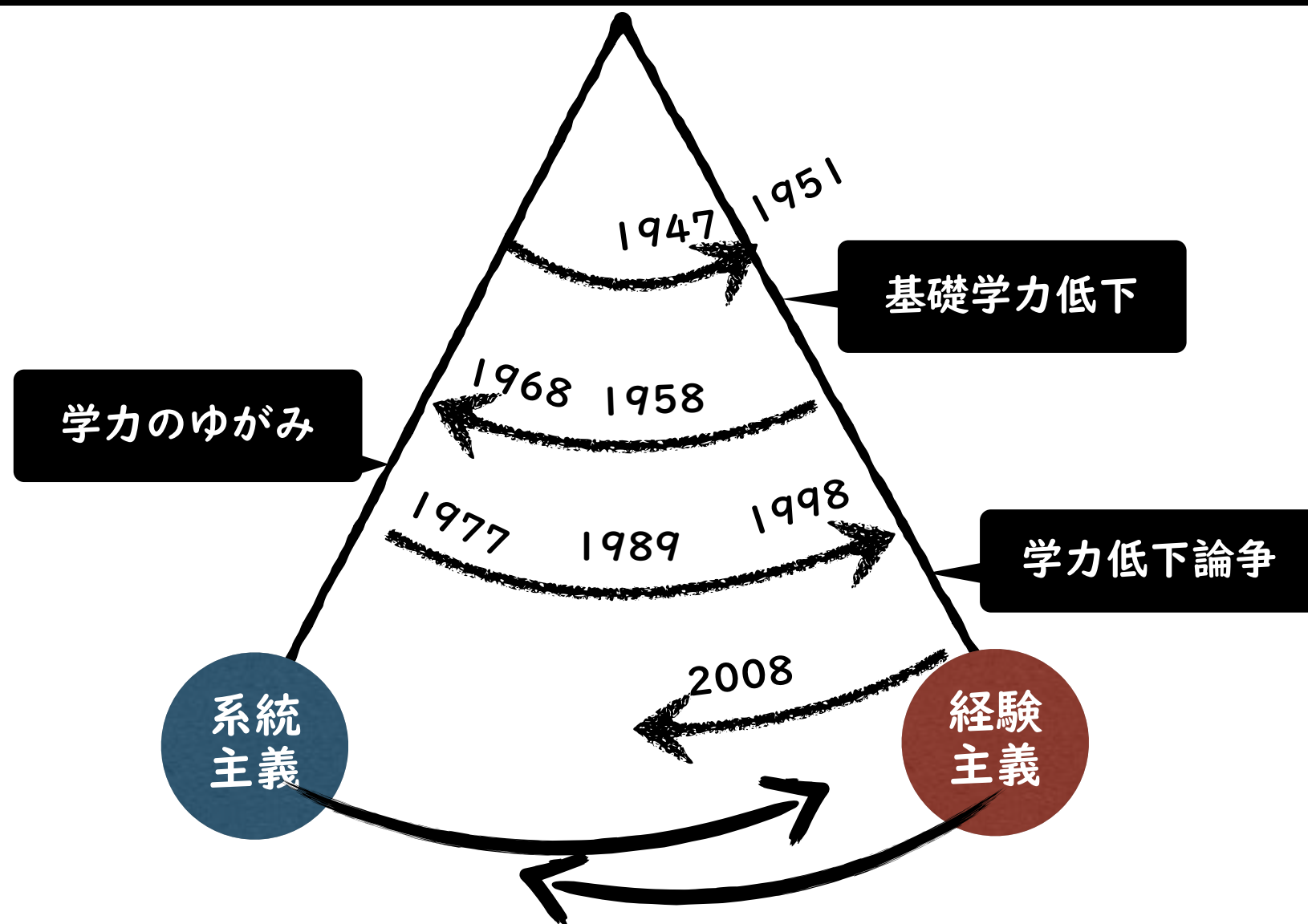
野菜作り

より強い「個」として考え、変えたり提案したりしていく

デューイの教育
子どもの関心をもとにしながら
子どもが知を練り上げていく

社会をよりよいものに変えていくこと、社会変革のためのクリティカルな考え方の育成などを重視する。

系統的な知識の教育は、生活と結びついた「ホンモノの知」になりにくい問題



戦後の経験主義教育批判の「基礎学力低下論」と、近年のゆとり教育批判だった「学力低下論争」は何が共通しているだろう？

- ① 共通して批判者たちが問題視していたこと、見落としていたことは何だろう？
- ② 共通して新しい教育の推進者たちが見落としていたことは何だろう？

Padlet①に書き込みましょう

⑨2018年版学習指導要領

広島大学附属 東雲小学校

単元 新紙幣の肖像画 (小学校高学年)

目標

- ・ 新紙幣の人物の功績を調べ、まとめたことを友だちと伝え合うことを通して近代化に寄与したことを理解できる
- ・ 新紙幣の3名が肖像画に選ばれたことの原因を通して、明治時代と現在の社会を比べたり、社会発展における普遍的な価値について考えることができる
- ・ 交流学習を通して、肖像画に選ばれた理由を自ら考えたり友だちとかかわりながら追求できる

紙幣の肖像画の移り変わりを知る

- ① 紙幣の肖像画の移り変わりを知る
- ② 紙幣の肖像にはどんな人が選ばれてきたか

新紙幣の肖像画の人物の功績を班ごとに調べる

- ③ 新紙幣のA氏、B氏、C氏はどんな人物だろうか
- ④ 班に分かれて、それぞれA氏～C氏を調べる
- ⑤ A氏～C氏班を分解して共有する

紙幣の肖像に選ばれることと社会貢献の関係を考える

- ⑥ なぜこの3名が新紙幣の肖像に選ばれたのだろうか
- ⑦ 3名の人物の功績と今の社会の課題をかかわらせて考える
- ⑧ 100年後の新紙幣の肖像にはどんな人になるのだろうか

①「知識体系の詰め込み」問題をどう回避しようとしているか？

②「ただの体験的学び」問題をどう回避しようとしているか？

考える力（探究的学び）の重視

何を学ぶか どう学ぶか
何ができるか？

主体的・対話的で深い学び

「あ」の系統主義の授業は実際どんな授業だったのか？

単元 世界の気候（小学校高学年）

目標

- 地表における気候のもっとも典型的な地域である赤道と極を取り上げ、気温・風・雨の三要素を理解する
- 赤道・極の気候を決める三要素の関連を大気の循環から構造的に捉える。
- 大まかに5つの地域の気候を見だし、その特色を知る
- 5つの地域の気候の概要を知り、その特色を明らかにする

赤道と極

- ① 地球を取り巻く大気の様子はどうなっているだろう
- ② 世界の気候の様子を話し合う

大気の動きと気候

- ④ 赤道や極地の気候の違いはどうして起きるのか
- ⑤ 地球を取り巻く大気はどのように動いているのか
- ⑥ 地球では気候の違う場所は大きくどう分けられるだろうか

世界の色々な気候

- ⑦ 「世界の気候区」の5つの区分をたしかめよう
- ⑧ 各気候区の気温と降水量、1年の変化をグラフにして話し合う
- ⑨ 気候区を決定して名称を決め、特色を文章にする

教科研で実践を積み重ねた先生の授業
(1966年)

実際の様子を見てみましょう（資料）

単元 世界の気候（小学校高学年）

目標

- 地表における気候のもっとも典型的な地域である赤道と極を取り上げ、気温・風・雨の三要素を理解する
- 赤道・極の気候を決める三要素の関連を大気の循環から構造的に捉える。
- 大まかに5つの地域の気候を見だし、その特色を知る
- 5つの地域の気候の概要を知り、その特色を明らかにする

赤道と極

- ① 地球を取り巻く大気の様子はどうなっているだろう
- ② 世界の気候の様子を話し合う

大気の動きと気候

- ④ 赤道や極地の気候の違いはどうして起きるのか
- ⑤ 地球を取り巻く大気はどのように動いているのか
- ⑥ 地球では気候の違う場所は大きくどう分けられるだろうか

世界の色々な気候

- ⑦ 「世界の気候区」の5つの区分をたしかめよう
- ⑧ 各気候区の気温と降水量、1年の変化をグラフにして話し合う
- ⑨ 気候区を決定して名称を決め、特色を文章にする

系統主義教育＝詰め込み教育
でもない「楽しい授業」の存在

単元 新紙幣の肖像画（小学校高学年）

目標

- 新紙幣の人物の功績を調べ、まとめたことを友だちと伝え合うことを通して近代化に寄与したことを理解できる
- 新紙幣の3名が肖像画に選ばれたことの理由を通して、明治時代と現在の社会を比べたり、社会発展における普遍的な価値について考えることができる
- 交流学习を通して、肖像画に選ばれた理由を自ら考えたり友だちとかかわりながら追求できる

紙幣の肖像画の移り変わりを知る

- ① 紙幣の肖像画の移り変わりを知る
- ② 紙幣の肖像にはどんな人が選ばれてきたか

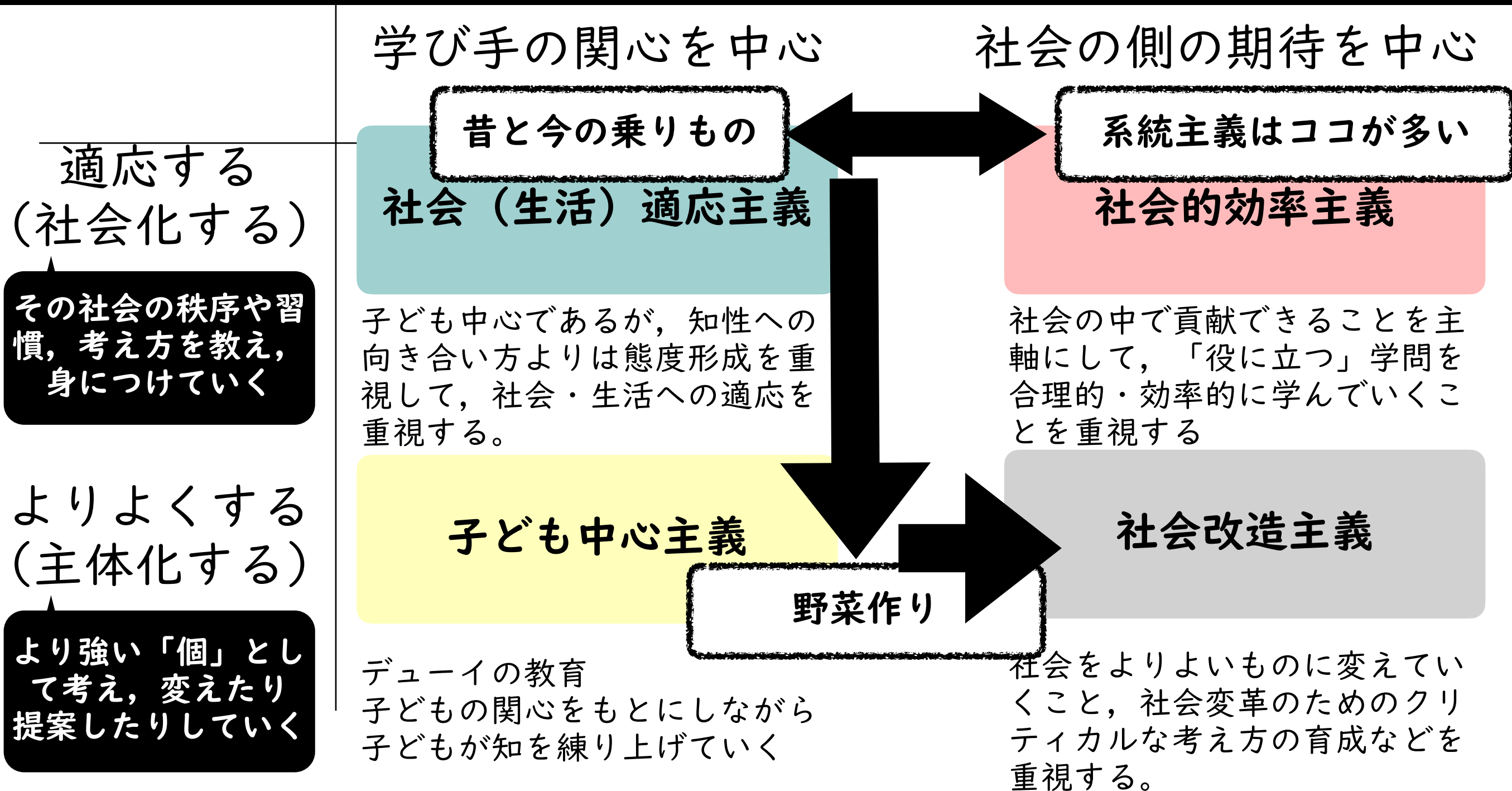
新紙幣の肖像画の人物の功績を班ごとに調べる

- ③ 新紙幣のA氏、B氏、C氏はどんな人物だろうか
- ④ 班に分かれて、それぞれA氏～C氏を調べる
- ⑤ A氏～C氏班を分解して共有する

紙幣の肖像に選ばれることと社会貢献の関係を考える

- ⑥ なぜこの3名が新紙幣の肖像に選ばれたのだろうか
- ⑦ 3名の人物の功績と今の社会の課題をかかわらせて考える
- ⑧ 100年後の新紙幣の肖像にはどんな人になるのだろうか

2018年指導要領の授業は
これまでの歴史のどれとも似ている？

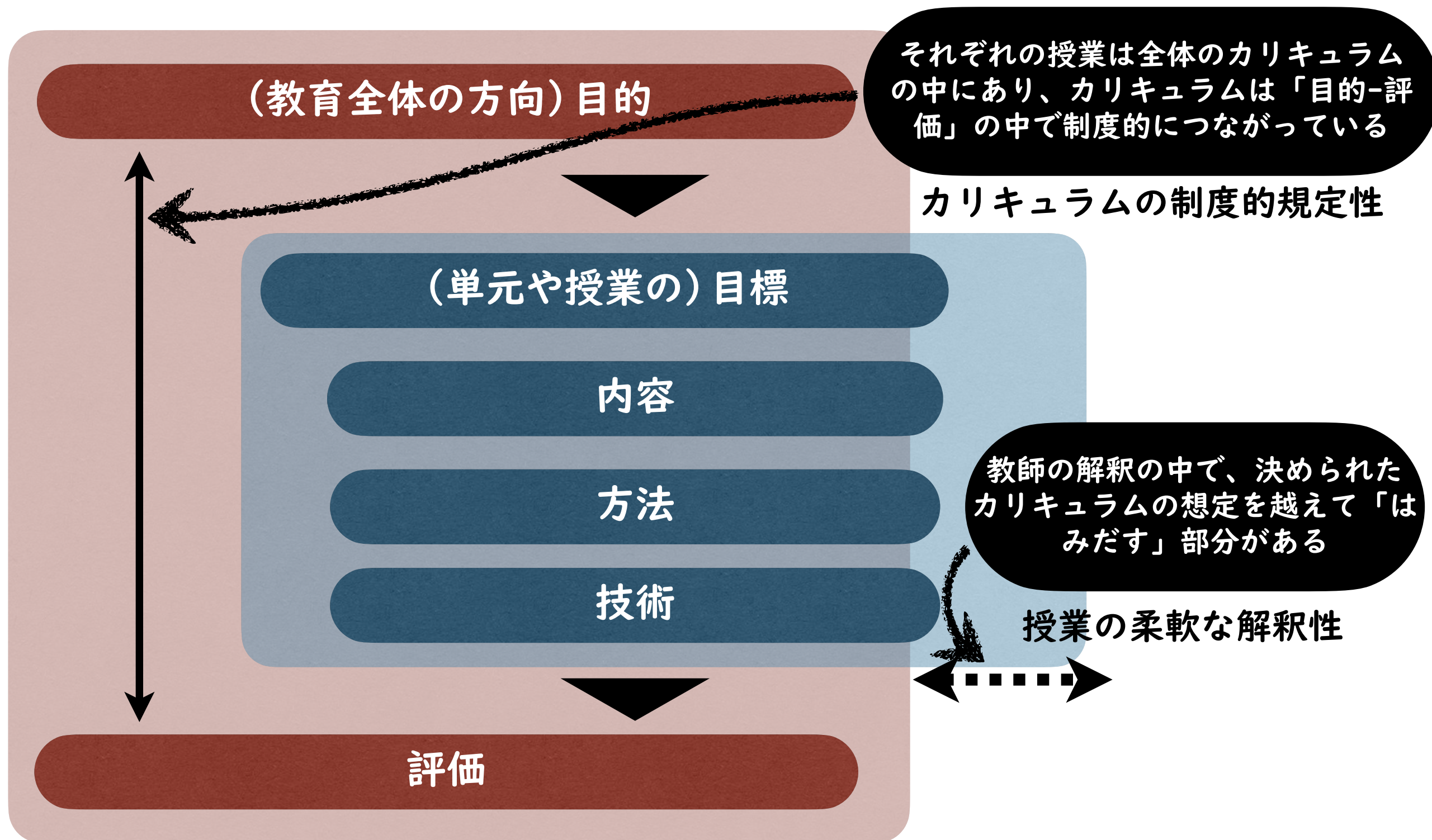


「ホンモノの知」（真正な知識）を学ぶこと（生活や社会との関係性の中で知を探る）

「協働の知」（関係性・間主観性の知）を育むこと（知識は個人と個人の間にある）

授業＞教育課程？

教育課程＞授業？



(教育全体の方向) 目的

それぞれの授業は全体のカリキュラム
の中にあり、カリキュラムは「目的-評
価」の中で制度的につながっている

カリキュラムの制度的規定性

(単元や授業の) 目標

内容

方法

技術

教師の解釈の中で、決められた
カリキュラムの想定を越えて「は
みだす」部分がある

授業の柔軟な解釈性

評価

青の領域の部分にのみ目が行ってしまい
赤の教育の全体像（何を目的にしているのか）
それと自分の実践がどうつながっているのか
をみうしなってしまう青は「先生がひとりでがんばる」像になる
でも赤は「みんなでがんばる」像であるカリキュラムの視点を持って
みんなでいい実践をなす人に

いい授業をしたい

つまづく子どもを
救いたい

命題⑤ 教育課程の変遷の中で「授業」も変わる。
その変化は必ずしも「知識中心→経験中心」ではない

命題⑥ 学力とは、能力。「何を大事な能力とするか」によって、「学力」の像自体が変わる。
学習指導要領は「何を大事な能力とするか」という目的方向性とその方策をしめしたもののでもある。

命題⑦ 学習指導要領は「学力」像によって振り子のように揺れ動いてきた。ただし、近年の学習指導要領「主体的で対話的で深い学び」や「真正の学び」を見ると完全な振り子ではなく、「振り子自体が前進している」イメージに近い。

命題⑧ 教育課程と授業は「同じではない」が「影響がある」
どのような教育課程の中でも、解釈と工夫の中で「おもしろい授業」にも「つまらない授業」にもなる。
ただし授業だけで考えるのは「ひとりでがんばる先生」像になりやすく、全体で育てる目線がなくなりやすい（また、疲弊しやすい）。
だからこそ「カリキュラム」の目線は重要。

「教育課程」と「カリキュラム」 私たちは同じもので、同じことを学んできたのか？



どっちなの？！
「ズレ」はないほうがいい？ 「ズレ」はあったほうがいい？

「公的な教育」が持つ「統一性と多様性」のジレンマ
教育をする人も、教育を受ける人も、色々な人がいる。だからこそどうする？

統一性を重視したい

違い＝格差
格差は埋めていくべきもの
すると多様な差異は認められにくい



多様性を重視したい

違い＝差異
差異は認めていくべきもの
すると格差が生まれやすい